藤原　孟 議員
（無会派）

問 忠類総合支所をZEB認定を受けられるよう建て替えを

答 現施設の長寿命化を図りながら維持管理し、建替えをする場合は、対策を講じる検討が必要

問 町は本庁舎・札内支所を自然エネルギーの活用を進めて建て替えてきた。残すところは忠類総合支所である。

この建物は、昭和51年に完成した鉄筋コンクリート造りの2階建ての規模であり、庁舎棟・大ホール・歯科診療所に分かれている。築46年が経過し（法的耐用年数は47年）ゼロカーボンを目指す町としては、現状のまま利用すべきではないと考え以下について伺います。

⑴建物は木造とすべき。

⑵熱エネルギーは化石燃料から地産エネルギーの活用について。

⑶次世代型太陽光発電（ペロブスカイト太陽電池）の活用を。

⑷柔道家金メダリスト、ウルフ・アロン氏が「体験イベント・未来をつくる授業」に参加し子どもたちとペロブスカイト太陽電池を使った工作に取り組んだ。また、忠類中学校2年生が「まちづくりについて」地区住民と意見交換会を開いた。理系に進む子どもたちが減っているので、科学に接する場面を作ってもらえないものか。

町長 ⑴現施設の長寿命化を図りながら適正な維持管理に努めているが、老朽化が著しくなった場合には、必要とする施設の機能、建築場所、財源調達、ご提案のありました建築方法や建築構造等を含めて住民の皆さんの合意を得ながら検討をする。

⑵⑶地産エネルギーの活用については、地域で活用できる再生可能エネルギーとして、太陽光、風力のほか、木質バイオマスや家畜ふん尿を利用したバイオガスなどが考えられ、農産物残渣を使用した循環型熱利用システムの取組も行われている。

このほか、新たな技術である「ペロブスカイト太陽電池」については、簡素な製造工程のため安価であること、製造時のエネルギー消費量が抑えられる等の特徴があり、薄くても高いエネルギー変換効率が得られ、軽く、薄く、柔らかい形状とすることが可能である。一方、酸素や水分などの外的影響を受けやすい等の課題もある。

町では、（仮称）「幕別町地球温暖化対策実行計画」を令和5年度に策定を予定している。計画の策定過程において、公共施設におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組の検討を進める。

⑷科学に関する学習の場として、児童生徒を対象に電子回路のプログラミングやものづくりを通じて理系に興味を持ってもらうことを目的に、釧路工業高等専門学校や北海道科学大学との共催で「ものづくり体験教室」の開催や、令和元年には、北海道幕別清陵高等学校との共催事業として「学校開放講座」を開催している。さらには、NPO法人まくべつ町民芸術劇場が主催する生涯学習講座では、小学生を対象に「夏休みチャレンジ講座」や「冬休みこども講座まつり」に加え、小中学生と保護者を対象にした「星空観察会」を開催し、児童生徒への科学に接する場の提供をしてきたが、今後も、さまざまな情報の発信や多様な講座を開設するとともに、住民のニーズを踏まえ、多くの方が参加しやすい学習機会の提供に努める。

ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）とは

建物の新築や改修する際に、快適な室内環境を保ちながら、高断熱化や自然エネルギーの活用、高効率な設備システムの導入等により、できる限り「省エネ」に努め、さらには太陽光発電などによりエネルギーを作り出す「創エネ」に取り組むことで、年間エネルギー消費量をゼロとすることを目的とした建築物に用いられる認証制度のこと。

忠類総合支所